

令和4年度
沖縄県立芸術大学芸術文化研究所文化講座

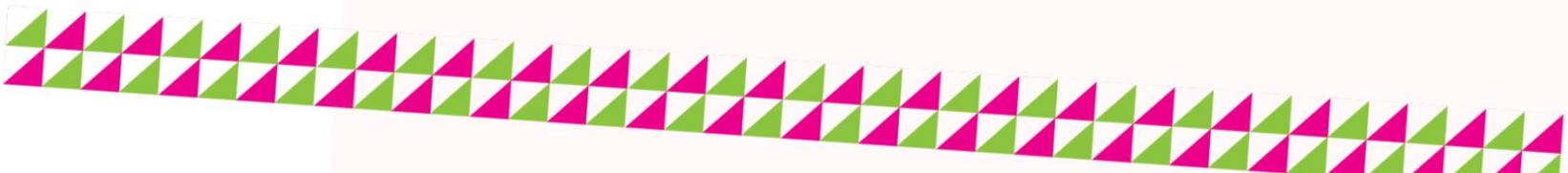


第4回

現代沖縄の大衆演劇

スライド資料配布Ver.

大嶺可代



文字



1. 第2次世界大戦直後
2. 1940年代後半～50年代前半
3. 1950年代後半～60年代前半
4. 復帰前後
5. 1970年代後半～80年代前半
6. 1980年代後半～90年代
7. 2000年以降
8. 総括、今後の課題

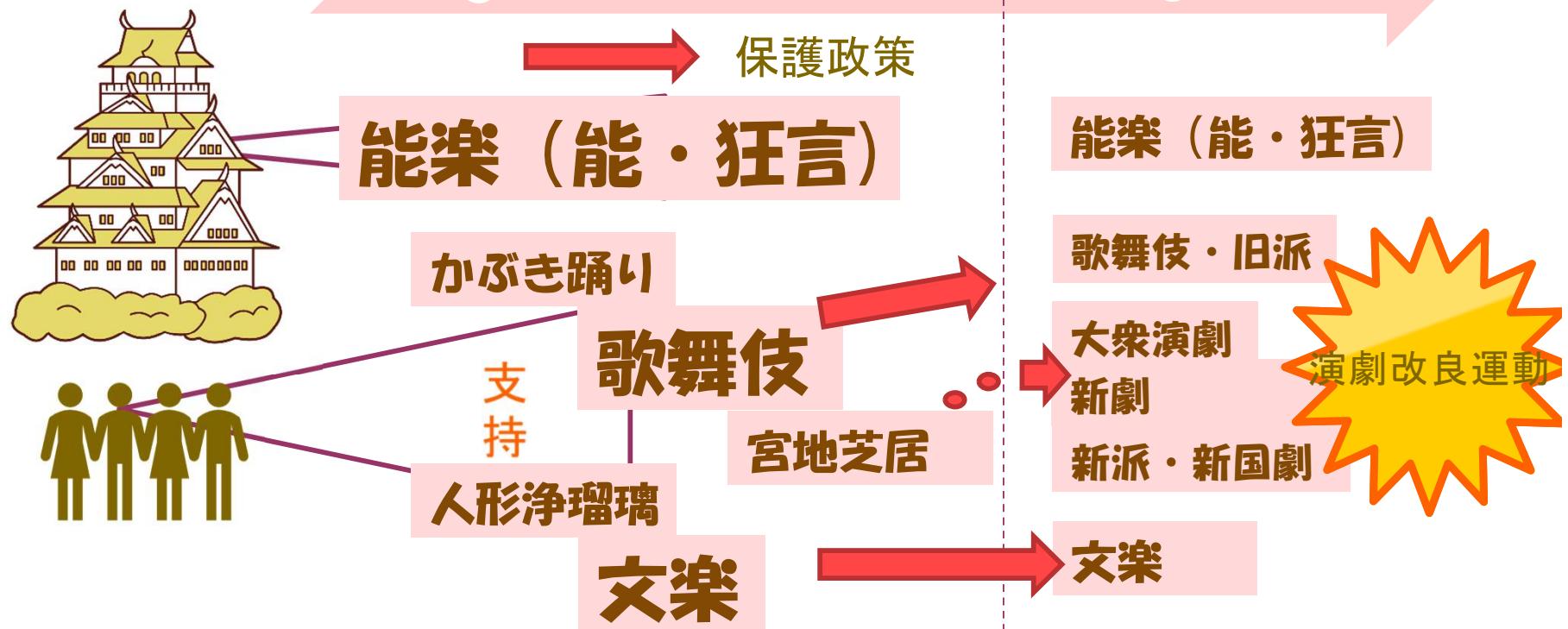
注：このPDFはスライド資料配布Ver.です。

前年度「沖縄芸能のダイナミズム」の大嶺担当講座 第6回

「沖縄における劇場・映画館の変遷」で用いたスライドや
時間的制約のため今回講義で使用できなかった大嶺の私物資料や情報な
どを適宜交えて収めてあります。配布は自由ですが、大嶺可代の名前を
添えてのご利用をお願いします。

日本本土の芸能 能楽 歌舞伎 文楽

Illustration : ミナミカズヒロ



能楽が室町期から江戸期にかけて支配層の保護政策を受けてきたのに対し、歌舞伎や文楽は民衆が作り出し支えてきた芸能である。

明治以降、能楽者（演奏者含む）らは職を失いながらも民間で伝統を守り続けた。文楽は明治以後も大阪の芸能として親しまれ続けた。

歌舞伎や、歌舞伎から分かれた宮地芝居は演劇改良運動の影響をもろに受け、新たな演劇ジャンルが生まれた。

Effect of Ryukyu-Shobun(琉球処分): the abolition of the Ryukyuan kingdom and incorporation into modern Japan as Okinawa prefecture

演劇人が政治へ影響を及ぼす例 :



MATSUDA, a leader of
'the theatre
reformation campaign'
also played a major
role in the
“modernization” of
Okinawa

Ronald Wilson Reagan
(アメリカ第40代大統領)
Arnold Alois Schwarzenegger
(第38代カリフォルニア州知事)
Володимир Олександрович Зеленський
(ウクライナ第6代大統領)
山本太郎
(元俳優、れいわ新選組代表)
扇千景
(元宝塚娘役、大臣を歴任し
女性初の参議院議長(第26代))

組踊／沖縄芝居／琉球舞踊

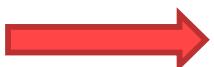


Illustration : ミナミカズヒロ

1719年

組踊

端踊



1879年（琉球処分）以降

組踊

商業演劇としての
沖縄芝居

琉球舞踊

広義の「沖縄芝居」

冊封使節を歓待する目的で誕生した組踊ならびに端踊であったが、琉球処分により琉球王国が消滅し、上演する場を失った。

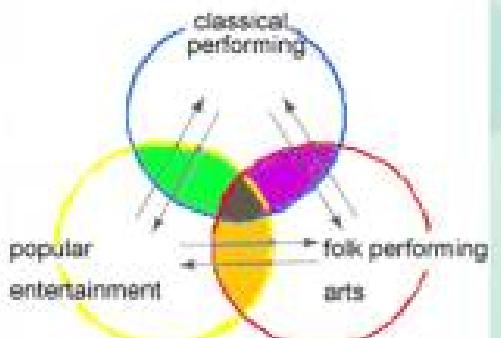
芸能に従事していた士族らが首里・那覇・地方で生業として組踊・端踊（琉球舞踊）を演じるようになった。やがて観客の要望に合わせた商業演劇が発展していった。これが（狭義の）沖縄芝居のはじまりである。

» Buddhism...Nenbutu Odori

Kuduchi
music

- » Chondaraa, Eiser
 - » Kumiodori
 - » Otoko odori
(kind of Haodori)
 - » Okinawa Sibai
- Manzai Thichiuchi
- Takadeera Manzai
- Okuyama no Botan

Suggestion of the classification
of Okinawan traditional performance art
(Kumada, 2011)



有名な沖縄芝居(三大歌劇など)

★ 泊阿嘉 (我如古弥栄・作)

沖縄のロミオとジュリエット

★ 伊江島ハンドー小(真境名由康・作)

男に裏切られた女が幽霊となって復讐する

★ 奥山の牡丹 (伊良波尹吉・作)

身分違いの悲恋と親子の情愛

「歌劇」は被支配者層である民衆の心情を代弁し、たびたび上演禁止された。



歌劇「中城情話」名場面集
YouTubeチャンネル
“沖縄県立芸術大学information”
(後半は
「誇らしゃしまくとうば講演会」
仲田幸子さんへのインタビュー)
https://youtu.be/n_ECd0oBnn8

移民あっせんをした役者

知念政実

1884—1932

- 首里汀良町生まれ 兄・政秀とともに球陽座で役者となる。名女形として知られた。
- 1907(明治40)年、23歳でブラジルに単身移民。国境から密入国してアルゼンチンへ渡り、移民あっせん業のかたわら、1912年ブエノスアイレスにカフェMIKADOを開く（県人最古のカフェとして知られる）。
- 1918年沖縄へ帰郷。一度東京の専修大学経済学部を卒業後、那覇の波の上、端道の角に菓子屋とパウリスタ海外社を開設。海外移住者の教育を受け持ったと伝えられる。
- 漢那憲和の応援演説などもしていた。
- 1930年、**渡嘉敷守良、伊良波尹吉ら**をつれてハワイ公演の指揮をとる。

- 1937(昭和12)年、ハワイ公演へ参加した真楽座の大宜見小太郎と、北谷集落からの参加者である静子が運命の出逢いをする。
- その後、一人は大阪で沖縄芝居の興業を続ける。
役者である知念政実があっせんしたハワイ移民らが招いた沖縄芸能の団体から戦後沖縄芝居を代表する俳優夫婦が誕生活力とした。
- そのまま大阪で終戦。1946年12月まで興業。

戦前ハイ公演～戦後へ



- その後、二人は大阪で沖縄芝居の興業を続ける。
- 小太郎をはじめ男性役者が徴用された後も静子は一座を代表する女優として男性役も演じながら「琉球演劇舞踊団」の興業を続けた。
郷里から離れて差別意識を抱えたまま生きる沖縄系の人々は舞台を見て泣き笑いし、明日への活力とした。
- そのまま大阪で終戦。1946年12月まで興業



そして大伸座発足へ……

郷里をなつかしむ沖縄系の人々が独自に日本各地で、また世界中の移民先で郷土芸能を心の拠り所にしていた

1. 第二次世界大戦直後

- ・ 「沖縄固有の文化を復活させる」「先住民の民間人を慰める」という米国の文化政策の下、各収容所で郷土芸能が行われた。
- ・ ことに沖縄方言で進行する組踊と沖縄芝居は日本本土から切り離して米軍統治を行う上でも好ましいものであった。
- ・ すべてを失った焦土の中からいち早く甦った芸能が、悲しみに沈む人々を癒やし、生きる活力を与え、復興にむけて再び立ち上がる後押しとなつた

終戦直後の沖縄芸能の受容例 日本本土



九州に疎開していた真境名由康と家族は**大分県判田村**で終戦を迎える

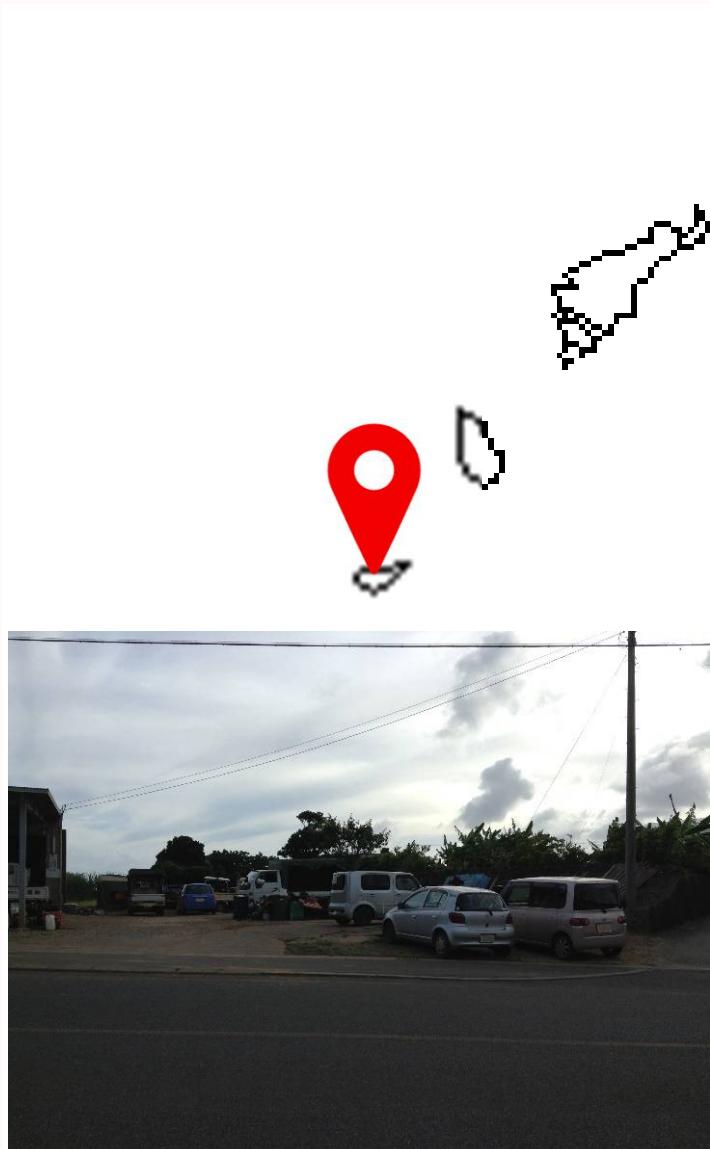


南西諸島連盟が組織する疎開者慰問公演芸能団に参加
金武良章、仲嶺盛竹、新垣澄子などが参加。各地で慰問公演を行う。

観客はどこも満員。
「生きていて沖縄芝居を見るシチン アテーサ」といって
みな感激し悲劇でもないのに
涙を流していた。
(『私の戦後史 第1集』 198p.)

終戦直後の沖縄芸能の受容例 奄美地域

沖永良部島知名町 木下弘明さんの証言
1923(大正12)年9月29日生まれ
三線（さんしる）の教師



住吉の野外劇場で音楽好きな人々が集まって歌も踊りもやっていた。入場料も取った。ほかにも各集落の広場や学校の落成式、警察の落成式の舞台をつとめた。

住吉で「伊江島ハンド一小」を上演したことがある。「泊阿嘉」はどこかの小学校でやった。

「奥山の牡丹」もやった。**娯楽がないので自分たちで土地に住む沖縄の人などに訊ねたりして話を組み立てて演じた。**

本番中に舞台袖で感激のあまり涙をながしながら地謡を務めたことがある

「奥山の牡丹」はお嬢さんが病人で殿様が忍んでいったんでしょ、お嬢さんが好きで。そういう歌にあったわ。

終戦直後の沖縄芸能の受容例 ペレー



池宮城秀長（いけみやぎ・ひでなが）さんの証言

1950年2月13日に「慈善音楽舞踊大演芸会」をボリバル劇場で開催した。

「第二次大戦中、私たちは敵国人として排斥されたため、ひっそりと暮らさねばならず、三味線を弾くことなど思いもよらなかった。だから、数年ぶりに聞く郷里のなつかしい舞曲、その音色は胸の奥底にしみわたり、なつかしさと感激で涙を流さない者はなかった。ボリバル劇場は超満員、みな「耳グワッチャー」「目グワッチャー」と大感激、快く募金におうじてくれたので予想以上の救援資金が集まった。

ボリバル劇場を埋め尽くした大観衆が、涙を流しながら琉球舞踊を見ていたあの時のことを思い出すと胸が熱くなってくる。「沖縄救済」と銘打つての演芸会であったが、それはまた敗戦によって外国で孤立した形となり、精神的な柱を失いかけた私たちに、ウチナーンチュとしての誇りと勇気を取り戻させた演芸会でもあったのである」

（『私の戦後史 第9集』245-246pp.）

2. 1940代後半～50年代前半

戦後(米軍統治下～復帰)の劇場、映画館①

沖縄芸能連盟→「松」「竹」「梅」官製劇団

1947年4月から劇団自由興業

戦後沖縄芝居を代表する役者たちが沖縄へ帰郷

1946年1月から巡回映画、

1948年からアーニーパイル国際劇場で映画上映開始

宮古・八重山では既に映画上映

密輸フィルムの存在(先島、奄美)

当時の教員給与が300円

劇団で浜千鳥1曲踊ると同じ値

(『具志川市史だより』第13号33p.)

- ラジオ放送 (AKAR:1949年→KSAR) はじまる
「かぎやで風」で開始、本放送で芸能大会実況中継
- 奄美から劇団(熱風座、奄美演技座)来島
- 邦画、洋画の流入

沖縄芝居は各劇団が統廃合を繰り返す

大宜見小太郎・静子
(大阪)

真境名由康(九州)

上間昌成・北島角子
(パラオ)

真喜志康忠
(シベリア)

世良利和『米軍統治時代の沖縄映画史—興行、制作、需要の独自性をめぐって』
29-33pp.

GENERATION TO GENERATION
STORIES OF OKINAWA
CHOSEI KABIRA & JON KABIRA



小那覇舞天と乙姫劇団 ハワイへ渡る

1951年

小那覇先生ご自分で舞台に立つときはいつも私を連れて行くんですよ。先生のイトマンマンクーや塩屋(すーや)ーぬパーパーは何回となく見ました。(中略)

だから、琉球放送の第1回(民謡)紅白歌合戦のときの司会者を先生としましたよ。

(『創立50周年記念誌 芝居』間好子談 71p.)

★RBCテレビ第1回民謡紅白歌合戦は1962年開催

高橋美樹「沖縄ポピュラー音楽史の変遷—各ジャンルの生成を中心として—」『高知大学教育学部研究報告』第66号 163p.

- 1962年にRBCで民謡関連番組が放送されたのは確認できるが「民謡紅白歌合戦」なのかどうかは不明
- 1963年にもRBCラジオで民謡番組を放送している

どちらも司会は小那覇舞天と間好子ではない



情報をおまちしています



和泊町 源英蔵さんの証言
1923(大正12)年8月14日生まれ

- 祖父、源瑞三氏が劇場を経営して沖縄芝居を上演していた。
- 終戦後1950年奄美映画会社を設立して沖縄へフィルムを密輸
- 1952年、琉球映画貿易会社（琉映貿）設立
- その後、和泊映画館を共同経営したり、菓子屋を開店するなど多岐にわたり活躍

(沖縄では) 買い物は闇市場で行うが、方言が話せないと内地の密航者と見なされ、二倍以上の金額を請求されることが有ったので、方言を覚えるため、暇があれば常に琉球芝居を見に行って居りました。

(『私のこれまでの生きざま』 23p.)

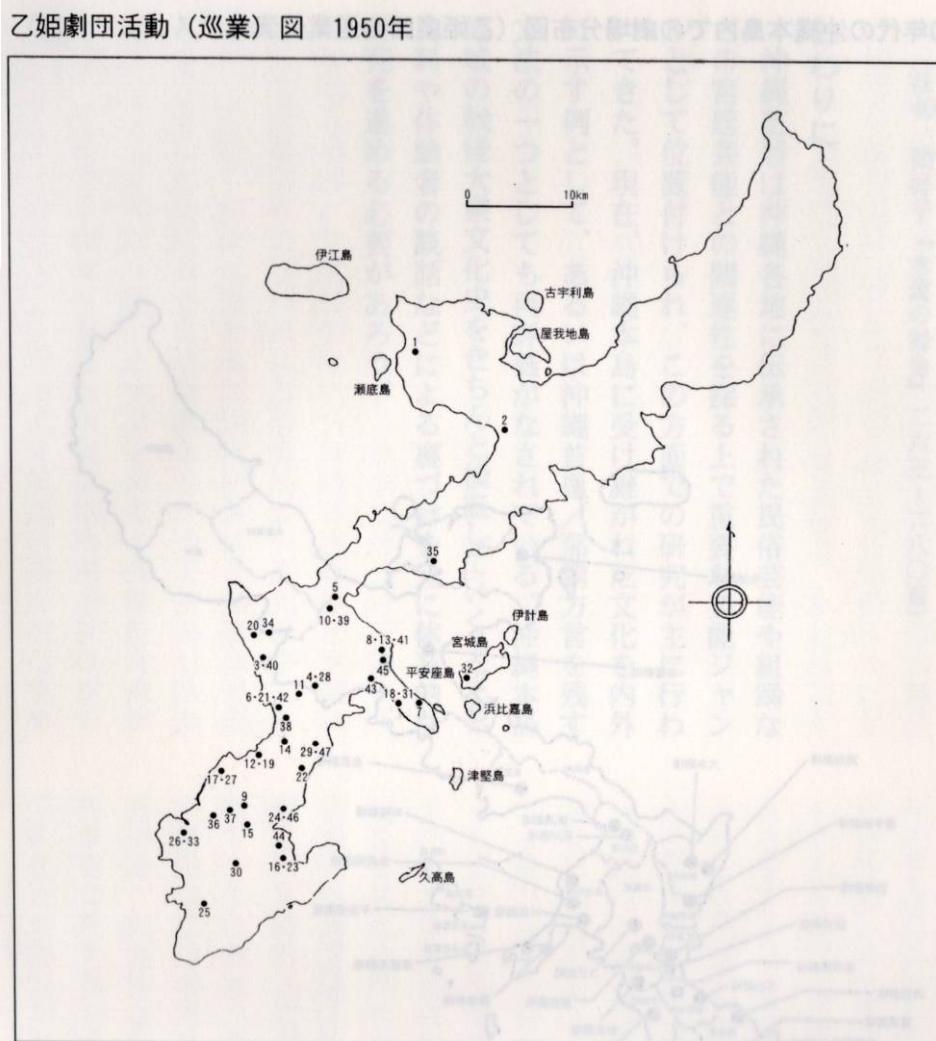
沖縄芝居は沖縄方言を理解活用するための語学ツールであった。

1950年代の沖縄芸能の受容例 日本本土



- ★ 1948年 東京で芸能保存会が設立され、渡嘉敷守良や児玉清子らが中心となり琉球舞踊などの舞台発表が行われる
- ★ 1951年 映画「ひめゆりの塔」が発表され、児玉清子が振付指導にあたる
- ★ 1952年 琉球舞踊が川崎市無形文化財指定
- ★ 1954年 同じく琉球舞踊が神奈川県無形文化財指定

「戦後沖縄本島地域における
沖縄芝居の活動状況について
—乙姫劇団を中心にして—」
『沖縄藝能史研究 9号』
大嶺



- | | | | | |
|-------------|----------|--------------|-----------|----------|
| 1 本部劇場 | 11 園田劇場 | 21 桃原劇場 | 31 勝連劇場 | 41 田場劇場 |
| 2 名護劇場 | 12 大山劇場 | 22 中城劇場 | 32 平安座劇場 | 42 桃原劇場 |
| 3 嘉手納劇場 | 13 田場劇場 | 23 馬天劇場 | 33 小禄劇場 | 43 川田劇場 |
| 4 コザ(嘉間良)劇場 | 14 普天間劇場 | 24 兼久劇場 | 34 大木劇場 | 44 与那原劇場 |
| 5 美浦劇場 | 15 兼城劇場* | 25 糸満劇場 | 35 金武劇場 | 45 金武湾劇場 |
| 6 桃原劇場 | 16 馬天劇場 | 26 小禄劇場 | 36 那覇国際劇場 | 46 兼久劇場 |
| 7 屋慶名劇場 | 17 浦添劇場 | 27 浦添劇場 | 37 沖縄劇場 | 47 热田劇場 |
| 8 田場劇場 | 18 勝連劇場 | 28 コザ(嘉間良)劇場 | 38 謝苅劇場 | |
| 9 首里劇場 | 19 大山劇場 | 29 热田劇場 | 39 石川劇場 | |
| 10 石川劇場 | 20 読谷劇場 | 30 東風平劇場 | 40 嘉手納劇場 | |

*兼城劇場については未だ場所が確認できない。この地図では南風原町字兼城としているが、現地調査を行っても劇場があったという証言は得られなかった。糸満市字蔵前について糸満市立図書館の金城善氏に問い合わせてみたが、そういう報告は寄せられていないという。

糸満兼城に
戦前路面電車の
駅がありました。

ひょっとすると
糸満兼城に
劇場が存在した
かも？

演劇コンクール

1955年～ 琉球新報社主催



沖縄中で活躍する劇団のほとんどがこれまでにないリアリズム、社会の風刺を取り入れた新しい作品を創作。計3回行われ、新たなファン層を切り開くなど沖縄芝居の地位向上に貢献。

後に沖縄タイムス社主催の芸術祭で「沖縄芝居」が行われる流れをつくる

ワタブーショウ 一世を風靡する

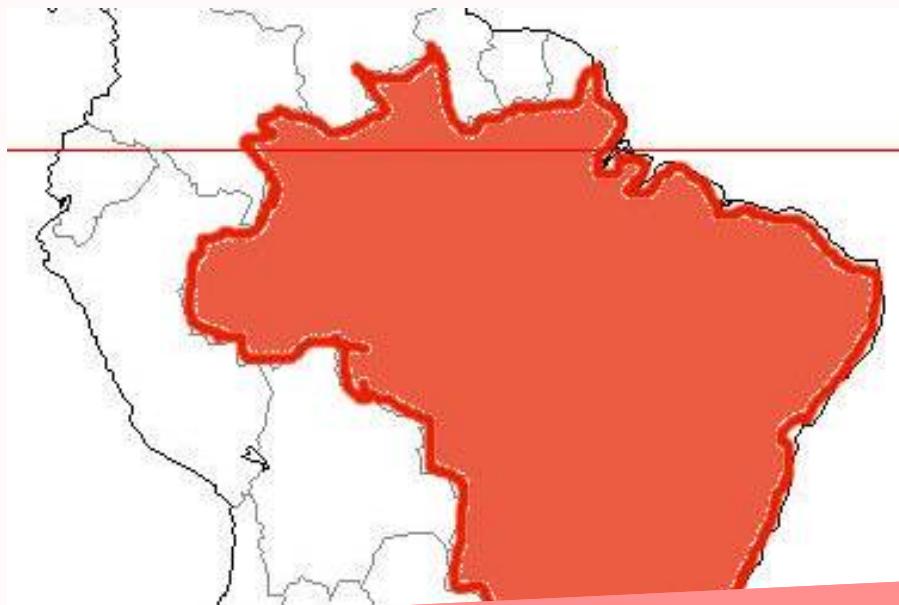


戦前、方言漫談で日本軍の検閲姿勢を痛烈に皮肉った小那覇舞天の弟子である照屋林助と、沖縄民謡界で活躍する前川守康とのコンビによるニュータイプの沖縄漫談

1957年から余興などのお笑いショー活動を開始
1960年モダン・チヨンダラーズ結成
ラジオを中心に活躍、沖縄全島で笑いを巻き起こす

その後、照屋は知名定男とマルテルレコードを設立、沖縄民謡の普及に貢献

1950～60年代の沖縄芸能の受容例 ブラジル



沖縄芝居にたずさわる人物
が琉球舞踊／琉球古典音楽
／沖縄民謡の教師免許を取
得し海外で指導者となる

弟子たちが「本場」の舞踊
や音楽技術を習得するため
に沖縄へ渡る

- ★ 1952年に山内盛彬や金井喜久子ら
が訪れ、音楽普及活動を行う
- ★ 1961年、乙姫劇団（玉城盛義門
下）にいた上原辰江が教師免許を
取得後ブラジルへ移民。ブラジル
で琉球舞踊の指導者として多くの
弟子を育てる。
- ★ 以後、三線や太鼓などの指導者を
志す者が沖縄へ「留学」したり、
沖縄からブラジルへ移民したりし
た。

沖縄で
新たな技能を身に着け
る／タレント活動／沖
縄芝居などイベントの
舞台に立つ

當間美恵蔵 世界放浪の旅 1957～



- ① ブラジル ② アルゼンチン ③ ウルグアイ ④ メキシコ ⑤ パナマ
⑥ 南アフリカ ケープタウン ⑦ ダーバン ⑧ エジプト カイロ
⑨ ローマ ナポリ ⑩ パリ ⑪ スペイン マドリード その後アムステルダム、
ポルトガル、チューリッヒを経て再びローマから羽田空港へ
『鼓（ちじん）太平記』284-5pp.

3. 1950年代後半～60年代

戦後(米軍統治下～復帰)の劇場、映画館②

1957年 知名定男、登川誠仁と「スキカンナー」

をリリースする 登川誠仁はよく沖縄芝居の楽屋に知名定男
を連れてきていた

1959年度版『沖縄年鑑』

映画常設館92館、演劇場12館、米軍専用映画館19館

1959年11月～沖縄テレビ、

1960年6月～琉球放送テレビ放送開始

演劇界、映画界の衰退へ

1962年 金城哲夫「吉屋チルー物語」

清村悦子ほか沖縄芝居の俳優ら

1965年 沖映本館が劇場へ移行

沖縄芝居のテレビ中継

“水曜劇場”は爆発的人気を呼び、その日は人々がテレビに釘づけにされるため、水曜日の集会や催物はタブーであった。ビデオのなかった時代で、劇場からの生中継であったため放送時間は夜10時から11時まで。時間点灯(6時から10時まで)していた地域では「今晚は、水曜劇場のため点灯時間を延長します」と親子ラジオで放送したものである。

(「戦後沖縄物価風物史・テレビ」1984年11月9日 琉球新報夕刊6面)

“水曜劇場”といえばローカル番組の横綱的存在で、開局以来9年も続いた長寿番組であった。1959年12月21日那覇市のあけぼの劇場から、劇団・与座の時代劇「片われ心中」を中継したのが最初である
(『テレビのはじまりや』安里慶之助)

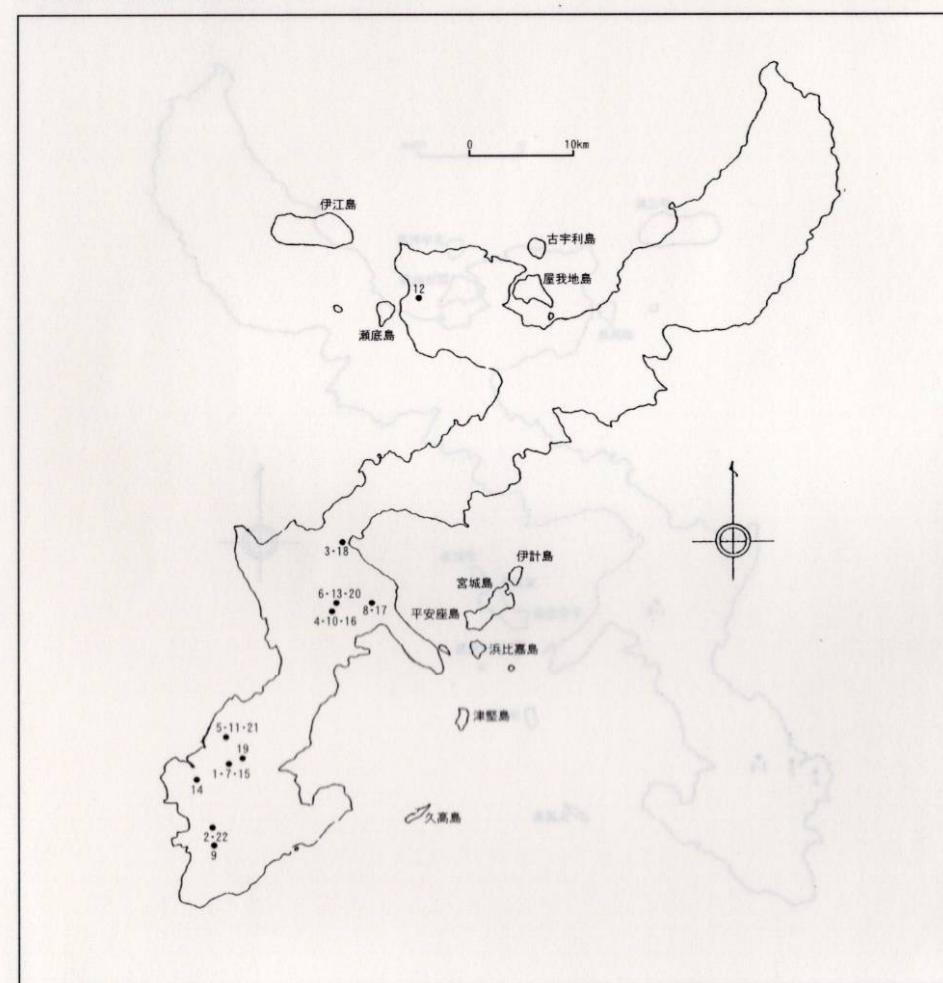
(番組が)始まると銭湯が空っぽになったり、結婚式会場からオジオバーが中座した。このころは実際に80パーセントの視聴率を記録したこともありました
(「しまくどうばの日」制定特別企画 喜劇ウチナーグチ万歳パンフレットより)

沖縄芝居が社会現象を起こし
経済活動へも変化をもたらした



「戦後沖縄本島地域における
沖縄芝居の活動状況について
—乙姫劇団を中心にして—」
『沖縄藝能史研究 9号』
大嶺

乙姫劇団活動（巡業）図 1960年



- | | | |
|-------------|--------------|-----------|
| 1 那覇劇場 | 11 安謝岡野劇場 | 21 安謝岡野劇場 |
| 2 新世界館 | 12 本部劇場 | 22 新世界館 |
| 3 石川劇場 | 13 コザ（嘉間良）劇場 | |
| 4 パラダイス劇場 | 14 小禄劇場 | |
| 5 安謝岡野劇場 | 15 那覇劇場 | |
| 6 コザ（嘉間良）劇場 | 16 パラダイス劇場 | |
| 7 那覇劇場 | 17 平良川劇場 | |
| 8 平良川劇場 | 18 石川劇場 | |
| 9 糸満劇場 | 19 あけぼの劇場 | |
| 10 パラダイス劇場 | 20 コザ（嘉間良）劇場 | |

浦添・屋富祖の映画館

『沖縄戦後50年の歩み』 221p.

1959年8月3日 『琉球新報』

「中通り(屋富祖大通り)は幅8メートル、長さ約350メートルで、両側には商店が約100戸、銀行6、映画館4、美容室、食堂、文具店などが立ち並んでいる」

『電話番号簿』には1962年以降、浦添沖映館、浦添琉映館、浦添オリオン座の3館が掲載されている

浦添第二琉映館は1959年あたりから数年間のみ存在？

1963年9月27日より10月11日まで
浦添ニュー東映にて乙姫劇団興業。
28日は大入りとの記述あり

沖縄芝居の宮古・八重山公演とラジオ

乙姫劇団の公演は1965年3月～
ほぼ同時期に先島中継局設立一周年イベントが行われ
ラジオで記念番組が方言をされている



平良港？で抱き合う
上間初枝と森多賀子

琉球放送先島中継局は昨年(1965・昭和40年)4月1日開局宮古放送文化に大きく貢献全住民から喜ばれている(中略)この特別番組列席のため琉球放送局編成部長川平朝清氏、同編成課長石垣正雄氏がきのう空路来島した。

今日夜は(のど自慢大会の)チームの優勝戦が行われるため、わが町からわが村からのど自慢優勝者を出そうという応援でにぎわうものとみられている。

(宮古毎日新聞1965年3月28日2面)

人々と沖縄芝居 番外編 沖縄名士劇

沖縄名士劇は沖縄テレビが主催となって、チャリティー公演として毎年行われていた。

この頃の公演は一日で終わらず「渡嘉敷守良作・琉球伝説」「泊阿嘉」「今帰仁由来記」はたまた歌舞伎など連日プログラムが組まれていた。指導には仲井真元楷、大宜見小太郎など芝居界の重鎮があつた。もちろんテレビでもその模様が放映された

名士劇は（中略）出演者自身も自分でないもう一つの舞台上の人物に化ける楽しみもあるだろうが、こうしたしようと芝居で見る人もけっこう芝居を楽しんで、おまけにその収入の純益が不幸な人たちのために少しでも役立つならば、これはまさに一石三鳥ともいべきである。

1965年3月26日琉球新報

沖縄芝居の宮古・八重山公演



外間夏子氏スクラップブック (沖縄県立芸術大学芸術文化研究所所蔵)より

石垣商工祭は石垣港竣工2周年、新石垣市誕生1周年、桟橋通舗装落成と3つの祝いをすることになっていた。乙姫劇団が出演したとの新聞記事（八重山毎日新聞1965年5月30日2面）

「パチリ・チクリ」欄にも乙姫の記事が。

沖映演劇

映画の輸入と配給を行っていた沖映が映画関連業務を打ち切り、
沖縄芝居の振興・改良を目的として「沖映本館」を劇場へ改築。
第一回公演『おきなわ』は東京の松竹歌劇団の協力を得てトップスターの
千草かおる、川路竜子らが特別出演し、舞台装置も本土並みの豪華なセットを組んだ。
沖縄中から観客がバスに乗って観劇に訪れ、
1965年5月～6月、昼夜2回28日間のロングラン記録を打ち立てた

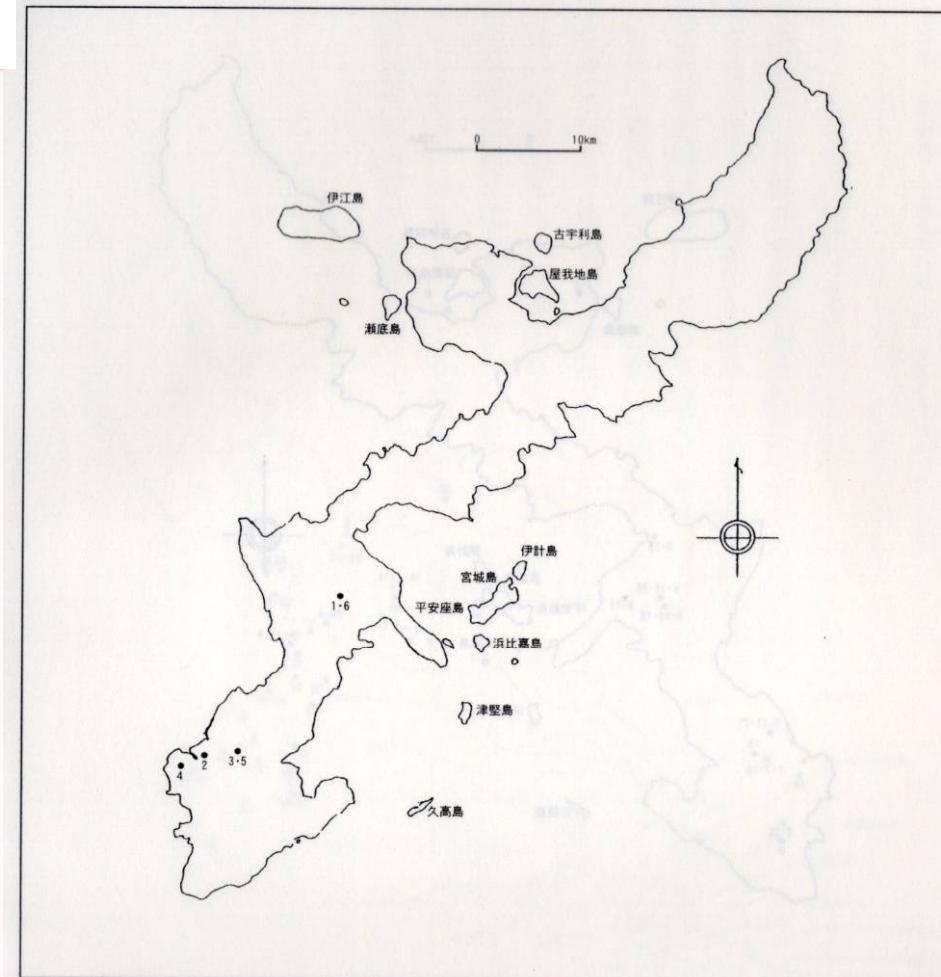
4. 復帰前後

1967年	国立劇場琉球芸能第1回公演	御冠船踊
1968年	国立劇場琉球芸能第2回公演	琉球歌劇
1971年	琉球新報第7回琉球フェスティバルに 「沖縄演劇」を加える 劇団・潮 旗揚げ 金城哲夫「佐敷の暴れん坊」	
1972年	国立劇場琉球芸能第3回公演	御冠船踊と琉球歌劇 組踊が国指定文化財となる
1973年	沖縄俳優協会 設立	

- 全国的な中流志向で宴会場、ホテルなどの利用が増える
→余興として琉球舞踊や民謡、沖縄芝居の寸劇がもてはやされる
→俳優らが結婚披露宴などの司会業者
- テレビコマーシャル、民謡番組への進出
- 敬老の日、母の日といった祝祭日を中心とした公演
- 個人中心のショー+他劇団員とのコラボレーション

「戦後沖縄本島地域における
沖縄芝居の活動状況について
—乙姫劇団を中心にして—」
『沖縄藝能史研究 9号』
大嶺

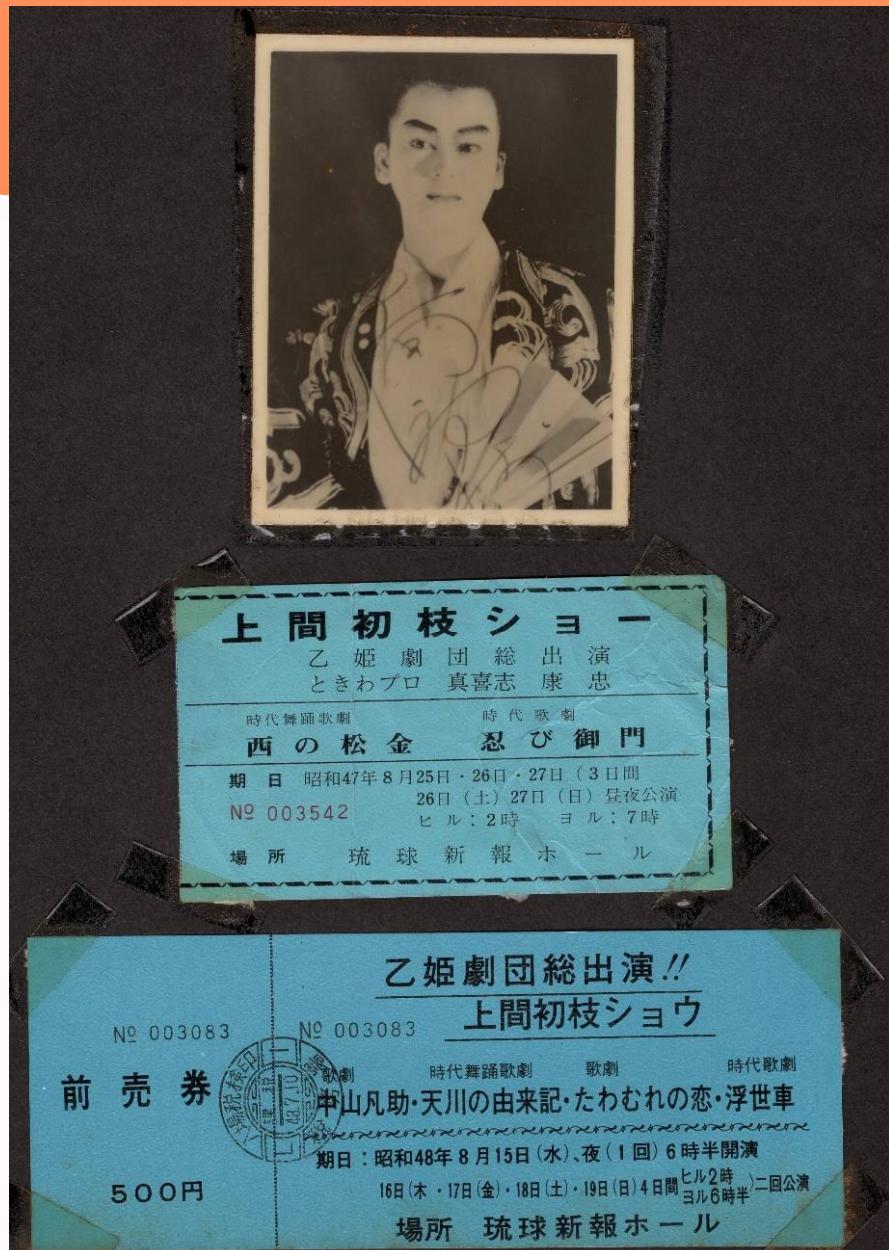
乙姫劇団活動（巡業）図 1970年



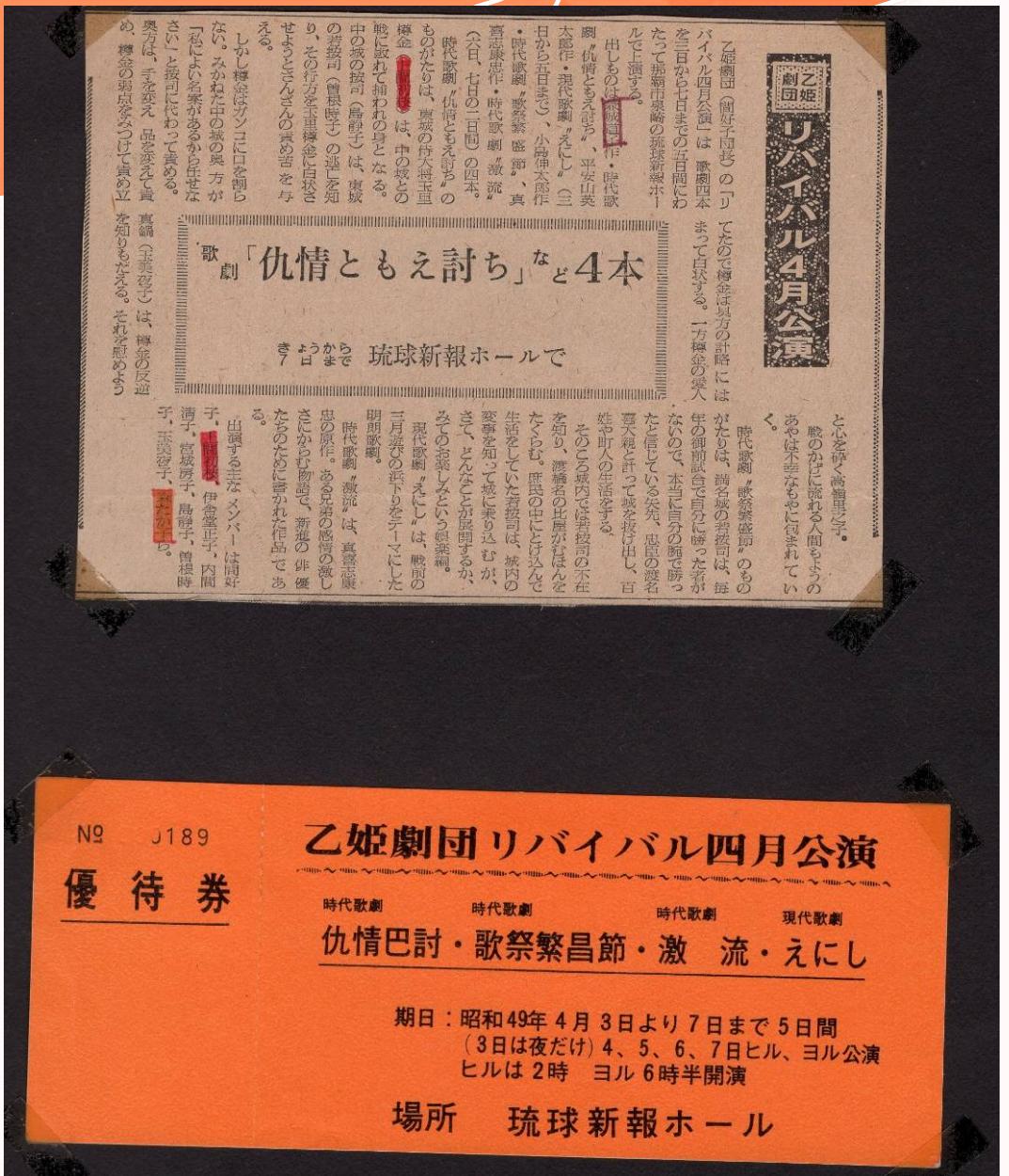
1 コザ自由劇場
2 琉球新報ホール

3 あけぼの劇場
4 ベリー劇場

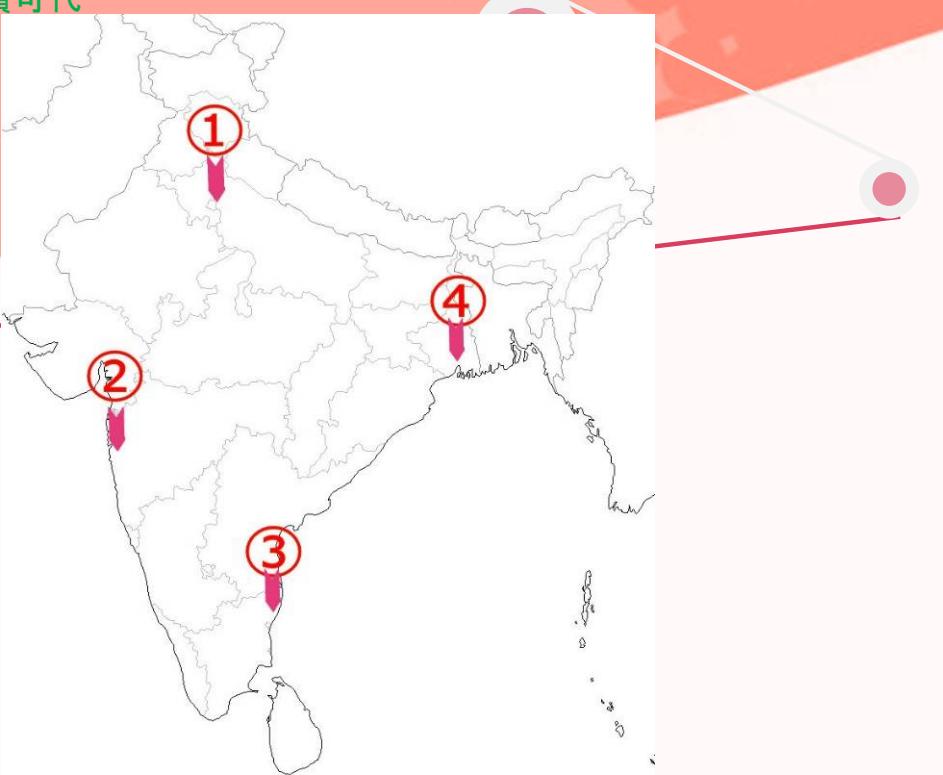
5 あけぼの劇場
6 コザ自由劇場



外間夏子氏スクラップブック
(沖縄県立芸術大学芸術文化研究所所蔵)より



40年の時を超えて復元された記録映像に映っていたのは歴史からは見えない伝統継承のための若き情熱だった！



1973, Okinawa art group visited to India. They staged New-Delhi, Bombay(Mumbai), Madras(Chennai), and Calcutta(Kolkata) on January.

The group members met Indira Gandhi, the prime minister of India. She was celebrated Okinawan Reverted to Japan, and said to hello to Okinawan people.

5. 70年代後半～80年代

1975年 沖縄国際海洋博覧会 金城哲夫が演出を担当

金城が考えた演出は、世界七つの海から汲んできた海水を博覧会会場に設置された一つの入れ物に注ぐという内容でした。

沖縄から世界へ発信する海洋博覧会セレモニーの舞台で、人類は海で一つにつながっているというメッセージを打ち出しました。

(南風原町「金城哲夫ウェブ資料館」より転載)

1976年 知念正真「人類館」岸田戯曲賞

明治時代に沖縄人が陳列された事件を戯曲化

1979年 謝名元慶福「島口説」 沖縄芝居でのいご座などは母の日と敬老の日は大規模な市民会館で、通常は各地の

1980年 嶋津与志「洞窟(ガマ)」スーパーや公民館、老人ホーム、農協ホール、レストラン、ホテルの宴会場、福祉センター、学校の体育館などで公演
“沖映演劇”閉幕

・ 沖縄ジャンジアン 開場 (~1993年11月)

- 県内の芸術芸能活動を幅広く支える
- 県外、国外からも広くアーティストが来沖

1983年 琉球放送30周年記念記念第1回RBC劇場

「琉球戦国史・天の巻」翌年「地の巻」「龍の巻」

笑築過激団 結成 →りんけんバンド

海外移民と沖縄芝居 沖縄からの芸能公演

大宜見小太郎を中心に与座朝帷、真栄田文子ら沖縄芝居一行が
1982(昭和57)年4月～5月にブラジル、アルゼンチン、ペルー
アメリカ(ロサンゼルス、ハワイ)で公演を行う
(ボリビア訪問は労働争議に伴う混乱でキャンセル)

当時アルゼンチンはイギリスとフォークランド紛争を起こしている真っ最中で
あったが、実際に現地到着すると非常にのんびりしていた。開演2時間前から
会場には客が詰め掛けていた。

「昼の部が終わっても御客が帰えらず、指定席で夜の部がいっぱいだと説明し
ても、金を払うから夜も見せてくれと帰らない。世話人とのそんなヤリトリを
聞いて、私は嬉し涙が出た」

『大宜見小太郎南北米へ渡る』 61p.

海外移民と沖縄芝居 沖縄からの芸能公演 ハワイ

1985年1月12日ホノルル市
「第3回ハワイ琉球民謡紅白歌合戦」

(第1回 1975年、第2回 1979年)

11日に行われた前夜祭「一世の夕べ」
では沖縄芝居が演じられた。大伸座が
25年前にハワイで演じた「ハワイから
来た男」など。

佐川昌夫一行はその後
ハワイ島ヒロ市でも公演を行い
大盛況であった。



Copyright(C) T-worldatlas All Rights Reserved.

6. 80年代後半～1990年代

1985年 創作ミュージカル「マブリー」

1987年 沖縄芝居実験劇場 発足

1989年 「ウンタマギルー」報知映画賞、ガリガリ映画賞

1990年 沖縄コンベンションセンター 県立郷土劇場開場

1991年 笑築過激団の番組RBC「お笑いポーポー」

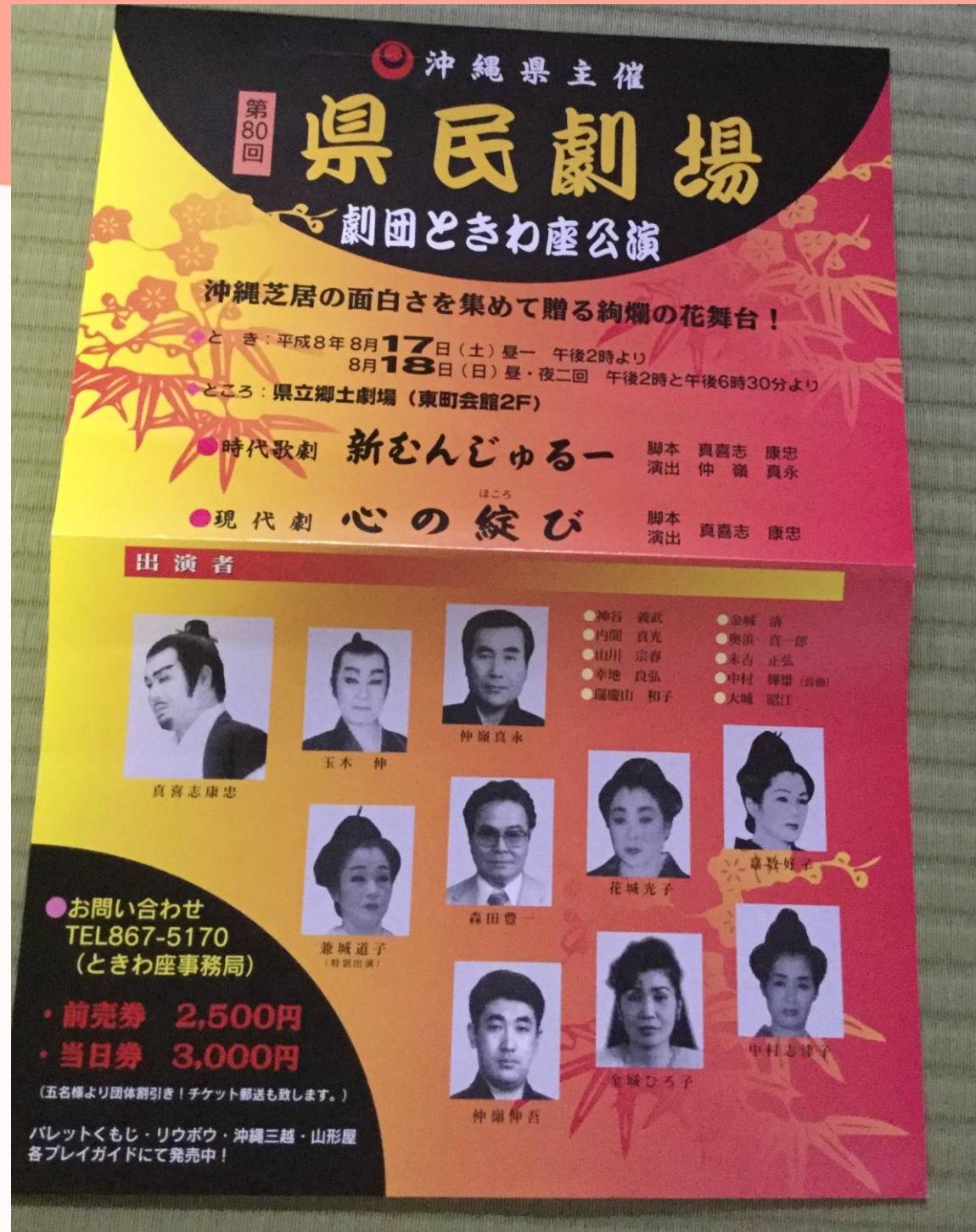
饒平名愛子「ハイタイカマド体操」

照屋林助、ポリカインの全国CMに起用され話題となる

1993年 大河ドラマ「琉球の風」

- 沖縄芝居の俳優らが出演、NHK沖縄放送局は本編ダイジェスト版を元に沖縄芝居の俳優らによるウチナーグチ吹き替えバージョンを独自に制作
- 1995年 人形劇「琉球風雲児 尚巴志物語」
- 1996年 嶋津与志原作「GAMA 月桃の花」主題歌が大ヒット
- 英語劇団アカバナー ハワイとロサンゼルスで公演
- 1997年 ミハマセブンプレックス誕生
- 1998年 沖縄市に小劇場あしびなー開場
- 1999年 映画「ナビィの恋」キネマ旬報ベストテン第2位





1989(平成元)年、琉球歌劇が県指定無形文化財となる

それに伴い様々な歌劇を中心に沖縄芝居が再び多くの舞台で演じられるようになっていく

県立郷土劇場は主に沖縄固有の芸能を上演する場として機能した

5階には組踊専用稽古場があり、「国立劇場おきなわ」が開場するまで組踊立方・地方双方を育成する場であった

沖縄芝居実験劇場の活躍



沖縄の抱える様々な問題を
沖縄方言で表す試み

英語劇団アカバナー

英語教員の比嘉美代子と
沖縄キリスト教短期大学英語劇クラ
ブメンバーOGたちが設立

沖縄を題材にした英語創作劇
「ザ・阿麻和利」「ザ・殉教者—石
垣永将物語」「ザ・オヤケアカハ
チ」を発表

1995年 平安山英太郎の歌劇
「仏桑華（あかばなー）」を翻案し
英語劇「ザ・仏桑華（あかば
なー）」を制作 劇団名もアカバ
ナーとした

沖縄芝居が英語で表現され、移民
二世三世らに沖縄文化を伝える語
学ツールとなった

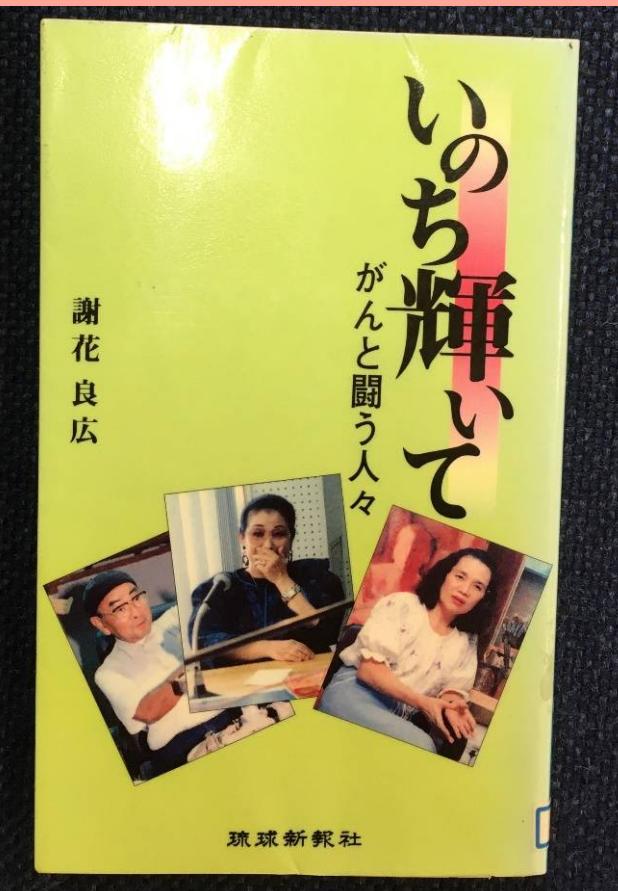
7. 2000年代以降

2000年 現代版組踊「肝高の阿麻和利」初演

2001年 連続テレビ小説「ちゅらさん」

平良とみが「おばあ旋風」を巻き起こす

- 2004年1月 国立劇場おきなわ開館
- 2004年11月 那覇市文化テンプス館開館
- 2005年 桜坂劇場(元の珊瑚座) 開場
- 2008年 特撮番組「琉神マブヤー」大ヒット
- 2010年 ダイドードリンコ 沖縄方言自販機設置
- 2012年 BS時代劇「テンペスト」
- 2014年 連続テレビ小説「純と愛」
肝高の阿麻和利YouTubeチャンネル設置
- 以後コロナ禍もあり沖縄芸能関連動画コンテンツが増加
- 2022年 連続テレビ小説「ちむどんどん」

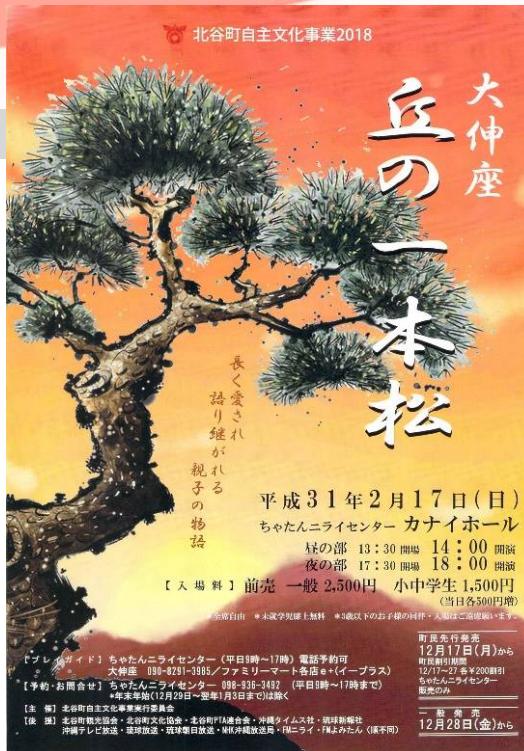


北島角子さんは1990年に乳がんの第3ステージと診断され4時間を超える手術を受けた

「がんになったのは仕方がない。泣いて済むなら、思い切り泣けばいいが、それだけでは問題は解決しないよ。要は、ありのままの自分をしっかり見つめ、がんと真正面から立ち向かう以外にないんだ。心はがんに侵されないで……一緒に生きよう」。
この人の言葉に救われた患者は少なくない。人を思いやるウチナーンチュのチムグクル（真心）は健在だった。（『いのち輝いて がんと闘う人々』68p.）

闘病経験者として舞台に立つ、また、ラジオのパーソナリティを務める
ことで同じ立場の人々へ勇気と希望を与えた

沖縄系移民らの子孫、舞台に立つ + 地域経済との結びつき



琉球芝居の演目“丘の一本松”的舞台が北谷町であることから名付けた「一本松」。代々受け継がれてきた昔ながらの製法によって丁寧に造られた泡盛は、爽やかでソフトな香りと軽快でキレのある喉越ししが特徴です。飲み方はストレートやロック、水割りがおすすめで、泡盛初心者から通の方まで幅広い層に好まれるお酒です。大勢で楽しむのに最適な一升瓶です。

<https://okinawa-awamori.or.jp/products/342/>

ダイドードリンコ おしゃべり自販機

方言の監修は、ROKラジオ沖縄の名物番組「方言ニュース」のパーソナリティーを長年務める小那覇全人（おなは・ぜんじん）さんが担当。さらに声優を、同じくROKラジオ沖縄の人気パーソナリティーとして活躍する当銘由亮（とうめ・よしあき）さんと富田めぐみさんが務めることで、本場のウチナーグチ（沖縄方言）を再現している。

BGMには沖縄を象徴する音楽を採用、沖縄が持つ独特の温かみを前面に出した自販機となった。



<https://news.nissyoku.co.jp/restaurant/tanakak20100607014215172>

ダイドードリンコ おしゃべり自販機 その2



https://www.dydo.co.jp/corporate/news/2017/170711/pdf/20170711_00.pdf
<https://ryukyushimpo.jp/movie/entry-532207.html>



Uchinah-Shibai comes into the spotlight again in the 21st century.

Actors and actresses who can speak Okinawan language are valuable teachers for the next generation. Nowadays, Uchinah Shibai actors appear in educational TV programs, Japanese TV dramas, and movies.

総括、今後の課題

- 沖縄芸能は沖縄系の人々にとって心の拠り所。外国で孤立した形となり、精神的な柱を失いかけた海外移民らにウチナーンチュとしての誇りと勇気を取り戻させた
- 悲しみに沈む人々を癒やし、生きる活力を与え、復興にむけて再び立ち上がる後押しとなった
- 沖縄芸能のすそ野を世界中の移民先に広め、子孫らに沖縄芸能と沖縄方言を伝えるきっかけを与えた。またその子孫らが郷里である沖縄で芸能活動に携わり、沖縄の人々にも影響をもたらした

沖縄芝居は

民衆の代弁者であり、アイデンティティーの表出の場である

沖縄芸能、沖縄方言という民族文化の財産を受け継ぐために貴重な役割を果たす

現代においても芸術文化活動や経済活動を刺激、活性化をもたらす分野



課題1 アクセシビリティの問題 特に字幕、手話通訳など

課題2 LGBT 性的マイノリティの方々への配慮

追記：「沖縄手話ダイエット日記」さんのYouTubeチャンネルで
創作沖縄芝居に手話および日本語字幕をつけた動画を配信していらっしゃいます
<https://youtu.be/-Svq1u7XqpA>



いっぺーにふえーでーびる

ご清聴ありがとうございました

